

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	2	教科書	論理国語 (大修館書店)
科目	論理国語	クラス	Ⅲコース	副教材	論理国語 学習ノート (大修館書店)
		単位数	2単位	担当者	小笠原友幸

学習目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。                  (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。                  (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	
学習方法	<p>・授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。                  ・プリントや副教材等を利用して、授業内容についての理解を深める。                  ・毎時間小テストを実施し、語彙力の定着を図る。                  ・自らの学習を振り返り自己評価するとともに、相手の意見や主張について考え相互評価する。</p>	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉の効果的に使おうとしている。
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	① 世界・言葉・私 『世界を広げる「批評」の言葉』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が定義することを的確に押さえ、主張をとらえる。</li> <li>・これからの時代における「書く」「読む」力について、自分の考えをもつ。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な段落の構造について、その構造を的確に理解している。</li> <li>・内容や構成、論理の展開をふまえながら的確に要旨を把握している。</li> <li>・主張を支える根拠や結論を導く論拠を的確にとらえるとともに、とらえた内容をともに批判的に検討している。</li> <li>・進んで筆者の主張とその根拠や結論をとらえようとするともに、内容に関して自らの考えをもち伝えようとしている。</li> </ul>	① 観察 ② ワークシート ③ 自己評価 ④ 相互評価 ⑤ 小テスト ⑥ 定期考査
	② 芸術と文化 『ミロのヴァイナス』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩的な表現に注意しつつ、論の展開をとらえる。</li> <li>・筆者の主張をふまえて、美しさについて、理解を深める。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的な文章や、芸術の鑑賞などで多用される語句の意味を理解し、それらの語を用いて本文の概要を説明している。</li> <li>・文章の構成と論理的な構造を理解し、筆者の主張を明確にとらえている。</li> <li>・筆者の用いる表現に注目して、その意味と効果を理解している。</li> <li>・筆者の主張を積極的にとらえ、美についての考えを深めようとしている。</li> </ul>	① 観察 ② ワークシート ③ 自己評価 ④ 相互評価 ⑤ 小テスト ⑥ 定期考査
前期末	③ 共同体のいま 『家族化するベット』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計資料や事例と筆者の主張との関係をとらえる。</li> <li>・社会構造の変化が、思考・感情に影響を与えることについて考えを深める。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一方」も「もう一方」だ」といった接続する語の働きを理解し、文章の展開をとらえている。</li> <li>・統計によるグラフやインタビュー調査の事例と、筆者の主張との関係をとらえ、全体の構成を押さえている。</li> <li>・現代社会におけるベットの位置づけについての筆者の考えとその理由を理解し、それに対する自分の立場を明確にしている。</li> <li>・ベットの家族化についての筆者の考えを、資料とあわせて意図的に読み取り、自分の考えをもつとしている。</li> </ul>	① 観察 ② ワークシート ③ 自己評価 ④ 相互評価 ⑤ 小テスト ⑥ 定期考査
	④ 科学の可能性 『自己をモデル化する』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理の展開を的確に押さえ、筆者の主張をとらえる。</li> <li>・科学技術の進歩と人間の本来について、考えを深める。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接続表現などの、論証したり学術的な基礎を学んたがために必要な語句を理解し、筆者の論の展開を捉えるために活用している。</li> <li>・科学技術と人間の関係についての筆者の考えを、論の展開にもとづいて理解し、文章全体の明晰さについて説明している。</li> <li>・自分の既知の知識や経験と関連付けながら、「人間とは何か」に対する自分の考えを深め、それを適切に表現している。</li> <li>・学習課題に沿って、論理の展開に注目しつつ、粘り強く筆者の主張をとらえようとしており、その経路を別の読み書きの活動に生かそうとしている。</li> </ul>	① 観察 ② ワークシート ③ 自己評価 ④ 相互評価 ⑤ 小テスト ⑥ 定期考査

後期中間	⑤ 日本語の多様性 『敬語への自覚、他者への自覚』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語についての筆者の主張と論理の展開を的確につかむ。</li> <li>・敬語や若者言葉など、言葉と社会の関係に興味をもち、考えを深める。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語についての概略を理解している。</li> <li>・敬語について、本文を読んで、筆者の主張をわかりやすくまとめている。</li> <li>・統計資料を的確に読み取って、本文と関連させて考えを深めている。</li> <li>・筆者の「敬語」が必要だという主張の内容を理解し、自身の考えを深めている。</li> <li>・敬語に関して、自分の問題として積極的に考えを深めようとしている。</li> </ul>	① 観察 ② ワークシート ③ 自己評価 ④ 相互評価 ⑤ 小テスト ⑥ 定期考査
	⑥ 思想の枠組み 『スキーマと記憶』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果などの具体例の本文中での役割を理解し、主張を読み取る。</li> <li>・記憶や学習におけるスキーマの働きを理解し、もの見方を広げる。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の主張に当たる情報とそれを裏づける情報とを的確に指摘している。</li> <li>・具体例の役割について、自分の言葉でわかりやすく的確に説明している。</li> <li>・意図的に学習活動に取り組む、伸び伸びと自分の考えを話したり書いたりしている。</li> </ul>	① 観察 ② ワークシート ③ 自己評価 ④ 相互評価 ⑤ 小テスト ⑥ 定期考査
後期末	⑦ 社会の原点 『分かち合う社会』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学説を引きながら論述する文章を読み、主張をとらえる。</li> <li>・食習慣を切り口にして人類社会の成り立ちについて考える。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コンテキスト」「イデオロギー」「コミュニケーション」といった重要語句の意味を理解し、文脈に沿って内容を把握している。</li> <li>・論理の展開を理解し、内容の概要を把握している。</li> <li>・人間の「分け与える食習慣」についての、筆者の主張を理解している。</li> <li>・文章の内容を意図的に読み取ろうとするともに、人間の食習慣について興味をもち、科学的に物事をとらえることのおもしろさや味わおうとしている。</li> </ul>	① 観察 ② ワークシート ③ 自己評価 ④ 相互評価 ⑤ 小テスト ⑥ 定期考査
	⑧ グローバル化の先へ 『心に「海」を持つ』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体の構成を意識して、筆者の主張をとらえる。</li> <li>・文明と海や人との関係を知り、普遍的な文明について理解を深める。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者特有の比喩や語句の使い方に注目し、その効果や意図をとらえている。</li> <li>・「心に海を持つ」とはどういうことかを理解している。</li> <li>・日本と異文化とのつながりに興味をもち、これからの異文化理解のありかたについて考えを深めている。</li> <li>・筆者がどのように論理を展開し、「心に海を持つ」ことの重要性を主張しているかを意図的に読み取ろうとしている。</li> </ul>	① 観察 ② ワークシート ③ 自己評価 ④ 相互評価 ⑤ 小テスト ⑥ 定期考査

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	2	教科書	文学国語 (大修館書店)
科目	文学国語	クラス	Ⅲコース	副教材	文学国語 学習ノート (大修館書店)
		単位数	2単位	担当者	小笠原 友幸

学習目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
------	--

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。</li> <li>○プリントや副教材等を利用し、授業内容についての理解を深める。</li> <li>○自らの学習を振り返り自己評価するとともに、相手の意見や主張について考え相互評価する。</li> </ul>
------	---

学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。
b 思考力・判断力・表現力	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
c 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	

定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	随想・評論(1) 十八歳の選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や身近なできごとを描いた文章に触れ、文学に親しむ。</li> <li>・想像したり共感したりしながら、自分自身の生き方を見つめる。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</li> <li>a 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</li> <li>b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。</li> <li>b 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。</li> <li>c 筆者のものの見方や考え方をとらえ、想像することや共感することをおして、自分の生き方について考えを深めようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考査、小テスト</li> <li>考査、小テスト</li> <li>ノート、話し合いの様子</li> <li>考査、ノート</li> <li>授業態度、ノート</li> </ul>
			○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。</li> <li>a 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</li> <li>b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。</li> <li>b 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方をとらえるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係をふまえ、作品の解釈を深めている。</li> <li>c 文体の特徴や語りの構造に興味をもち、登場人物の心情や境遇をふまえて、作品を読み味わおうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考査、小テスト</li> <li>考査、小テスト</li> <li>ノート、話し合いの様子</li> <li>ワークシート、ノート</li> <li>授業態度、ノート</li> </ul>
前期末	随想・評論(2) 鹿を追いかけて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の展開に即した情景描写に着目する。</li> <li>・自然と人間との関係がどのように表れているのかをとらえる。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</li> <li>a 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</li> <li>b 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。</li> <li>b 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係をふまえ、作品の解釈を深めている。</li> <li>c 文中で描かれる自然と人間関係に興味をもち、情景描写をはじめとした表現を読み味わおうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考査、小テスト</li> <li>考査、小テスト</li> <li>授業態度、ノート</li> <li>ワークシート、ノート</li> <li>授業態度、成果物</li> </ul>
			○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。</li> <li>a 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</li> <li>b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。</li> <li>b 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。</li> <li>c 作品の構成や表現に興味をもち、寓意的な意味をとらえようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考査、小テスト</li> <li>考査、小テスト</li> <li>ノート、話し合いの様子</li> <li>考査、ノート</li> <li>ワークシート、ノート</li> </ul>

後期中間	詩・短歌・俳句 永訣の朝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩、短歌、俳句の形式やリズムを味わう。</li> <li>・短文の表現や効果について理解を深める。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</li> <li>a 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</li> <li>b 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特徴について評価することをおして、内容を解釈している。</li> <li>b 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。</li> <li>c 短文の表現や効果について理解を深め、作品の魅力を読み味わおうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考査、小テスト</li> <li>考査、小テスト</li> <li>ワークシート、ノート</li> <li>考査、ノート</li> <li>授業態度、成果物</li> </ul>
			○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うこととおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>a 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</li> <li>b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。</li> <li>b 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。</li> <li>c 登場人物の境遇や、それぞれの人物関係をおさえ、作品の魅力を読み味わおうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考査、小テスト</li> <li>考査、小テスト</li> <li>ワークシート、ノート</li> <li>考査、ノート</li> <li>授業態度、ノート</li> </ul>
後期末	随想・評論(3) 月の誤訳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い視点で日本の言語文化の特徴をとらえる。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</li> <li>a 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</li> <li>b 「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。</li> <li>c 作者のものの見方をとおして、日本の言語文化の特徴について考えを深めようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考査、小テスト</li> <li>考査、小テスト</li> <li>考査、ノート</li> <li>成果物、話し合いの様子</li> </ul>
			○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。</li> <li>a 文学的な文章を読むこととおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</li> <li>b 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。</li> <li>b 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特徴について評価することをおして、内容を解釈している。</li> <li>c 舞台設定や時代背景をおさえ、作品のテーマについて考えを深めようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考査、小テスト</li> <li>考査、小テスト</li> <li>ワークシート、ノート</li> <li>ワークシート、ノート</li> <li>成果物、話し合いの様子</li> </ul>

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	2	教科書	高等学校 古典探求 (教研出版)
科目	古典探求	クラス	Ⅲコース	副教材	古典探求 学習ノート (教研出版)
		単位数	2	担当者	小笠原 友幸

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語を理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ることができる。</li> <li>目的など場に応じて効果的に話し合いの確に聞き取りたりして、自分の考えを深め、発展させることができる。</li> <li>必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させることができる。</li> <li>近世以降の文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読み取り、自分の考えを深め、発展させることができる。</li> <li>言語文化及び言葉の特徴や決まりなどについての理解を深め、知識を身に付けることができる。</li> </ul>
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。</li> <li>プリントや副教材等を利用し、授業内容についての理解を深める。</li> <li>毎時間小テストを実施し、読解力の定着を図る。</li> <li>自らの学習を振り返り自己評価するとともに、相手の意見や主張について考え相互評価する。</li> </ul>
学習評価	<p>評価の観点</p> <p>評価の趣旨</p> <p>a 知識及び技能 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付け、文章を的確に読み取りたり、目的に応じて幅広く読み取りたりして、自分の考えを深め、発展させている。</p> <p>b 思考力・判断力・表現力 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>c 主体的に学習に取り組む態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。</p> <p>定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。</p>

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	歌物語 初冠(伊勢物語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの歌について修辭法を確認する。「男」が着ていた「狩衣の裾」を切り取って歌を書いたのはなぜか、考える。</li> <li>「かいくちはやきみやび」とは「男」のどのような言動を指して言ったものか、説明する。</li> <li>「春日野の…」の歌と「みちのくの…」の歌の類似点・相違点を考える。</li> </ul>	○	○	○	<p>a 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</p> <p>b 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。</p> <p>c 粘り強く「春日野の…」歌と「みちのくの…」歌を比較し、学習課題に沿って類似点・相違点を整理しようとしている。</p>	<p>指名音読、ノートの記述</p> <p>ワークシート、成果物</p> <p>授業態度、話し合いの様子</p>
	故事 江南橋為江北枳	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓読で教材を朗読する。</li> <li>音読みによる直読で教材を朗読する。</li> <li>口語訳で教材を朗読する。</li> <li>三種類の朗読から受ける印象の違いを話し合う。</li> </ul>	○	○	○	<p>a 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解している。</p> <p>b 「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することをおして、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>c 朗読から受ける印象の違いを話し合う活動において、積極的に話し合いに参加している。</p>	<p>発言、ノートの記述</p> <p>ワークシート、ノートの記述</p> <p>指名音読、話し合いの様子</p>
前期末	日記文学 東路の道の果て(更級日記)	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語を読みたいと思う気持ちが表れている表現を順に抜き出す。「人知れずうちかれぬ」という作者の気持ちを説明する。</li> </ul>	○	○	○	<p>a 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</p> <p>b 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。</p> <p>c 積極的に作者の心情をたえ、学習の見直しをもって自分の考えを証明しようとしている。</p>	<p>指名音読、ノートの記述</p> <p>ワークシート等成果物</p> <p>授業態度、話し合いの様子</p>
	漢詩 絶句「鹿柴」「山中対詠」 律詩「旅夜書懷」「黄鶴樓」	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元内の教材の学習を踏まえて、漢詩の規則を確認する。「春」をテーマとした七言絶句を作る。</li> </ul>	○	○	○	<p>a 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。</p> <p>b 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。</p> <p>c 漢詩の創作に粘り強く取り組んでいる。</p>	<p>指名音読、ノートの記述</p> <p>ワークシート等成果物</p> <p>授業態度、成果物</p>

後期中間	物語 光源氏誕生(源氏物語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに對し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。</li> <li>「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。</li> <li>帝、桐壺の更衣、弘徽殿の女御の人物像について考える。</li> </ul>	○	○	○	<p>a 古典を楽しむために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</p> <p>b 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>c 登場人物の心情とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。</p>	<p>指名音読、ノートの記述</p> <p>ワークシート、話し合いの様子</p> <p>授業態度、ノートの記述 話し合いの様子</p>
	思想 「論語」「老子」「莊子」「韓非子」 未来に備える遺伝子	<ul style="list-style-type: none"> <li>「未来に備える遺伝子」を読んで、単元内で学習した諸子百家の文章に見る考え方の共通点を考える。</li> <li>諸子百家の文章から現代に通じる考え方を採り、文章としてまとめる。</li> </ul>	○	○	○	<p>a 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>b 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>c 諸子百家の文章から現代に通じる考え方を粘り強く見だし、積極的に文章に表そうとしている。</p>	<p>ノートの記述、成果物</p> <p>ワークシート、話し合いの様子</p> <p>ワークシート、成果物</p>
後期末	随筆(2) ゆく河の流れ(方丈記)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「世の中にある人と橋と、またかのごとし」について、「人と橋」が何とどのように同じなのか、説明する。</li> <li>「無常」に対する作者の考えについて、説明する。</li> </ul>	○	○	○	<p>a 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。</p> <p>b 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。</p> <p>c 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。</p>	<p>指名音読、ノートの記述</p> <p>ワークシート等成果物</p> <p>ワークシート、ノートの記述</p>
	史伝 鴻門之会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。</li> <li>「四面楚歌」「項羽が江東に帰らなかった理由」を考えて話し合う。</li> </ul>	○	○	○	<p>a 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</p> <p>b 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。</p> <p>c 本文から読みとった項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性をもって話し合いに参加しようとしている。</p>	<p>指名音読、ノートの記述</p> <p>ワークシート等成果物</p> <p>成果物、話し合いの様子</p>

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	地理歴史	学年	2	教科書	世界史探究 詳説世界史 (山川出版社)
科目	世界史探究	コース	Ⅲ	副教材	グローバルワイド世界史図表 (第一学習社)
		単位数	2	担当者	吉田 大樹

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追ったり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。	
学習方法	(1)単元にテーマを設定し、課題探究的な学習をベースとする。副教材と小テストで日常的に知識理解を図る。 (2)単元の学習に、学習内容が可視化できる教具を活用したり、ICT機器を活用したりしながら学習する。 (3)主体的かつ対話的で深い学びを促すために、ペアワークやグループワークを随時用いて学習する。 (4)現代における社会的事象の「見方・考え方」と、歴史的な「見方・考え方」をつなげられるように学習する。 (5)日本との関連や、現代社会におけるグローバルな課題と、世界の歴史の推移との関わりを学習する。	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	b 思考力・判断力・表現力	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	c 主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	世界史へのまなざし 第1章 諸地域の歴史的特質の形成	1 自然環境と人類の進化 2 文明の誕生 3 古代メソポタミア文明とその周辺 4 南アジアの古代文明 5 中国の古代文明 6 南北アメリカ文明	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成	○	○	○	a: 古代国家と社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。古代国家と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 古代国家と社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に考察したり、表現したりしている。 c: 古代国家と社会や文化の特色に関する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
前期末	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 キリシヤ人の都市国家 3 ローマと地中海世界 4 キリスト教の成立と発展	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ社会の形成	1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)

後期中間	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向	○	○	○	a: イスラーム世界やヨーロッパ中世世界の社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、それに関する諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: イスラーム世界やヨーロッパ中世世界の社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に考察したり、表現したりしている。 c: イスラーム世界やヨーロッパ中世世界の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
後期末	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国	○	○	○	a: 近世国家と社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。近世国家と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 近世国家と社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に考察したり、表現したりしている。 c: 近世国家と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第9章 大交易・大交流の時代	1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第10章 アジアの諸地域と繁栄	1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
前期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	公民	学年	2	教科書	公共 (東京法令出版)
科目	公共	コース	Ⅲ	副教材	なし
		単位数	2	担当者	湊 祥之介

学習目標	現代の諸課題を見つめることを通して、グローバル化する国際社会、多様化する身近な社会の形成者として、よりよい社会の構築や人間としての在り方や生き方についての自覚を深め、課題解決のための選択や判断に資する見方・考え方を養いながら、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての資質・能力を育成する。	
学習方法	(1)単元の基礎となる問いを設定し、生徒自身による「問いを表現する」機会も設定する。 (2)ピアワークを展開し、主体的・対話的で深い学びにつながる言語活動を重視した授業を行う。 (3)生徒の将来像を意識して、DXに対応したICT授業をよりいっそう推進する。 (4)現代の諸課題に関するさまざまな資料を通して、社会的現象における「見方・考え方」や公民的な「見方・考え方」を働かせる。	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	現代の社会的現象と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
	b 思考力・判断力・表現力	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的現象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 第1章 公共的な空間をつくる 私たちが	①社会のなかの私たち ②日本の文化と社会 ③青年期とは ④自己形成の課題 ⑤ライフ・キャリアの形成 ⑥社会の多様性 ⑦宗教と文化	○	○	○	a: 選択・判断の手掛かりとして、個人や社会全体の幸福、公正などの義務を重視する考え方を理解している。諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能が身に付いている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ペアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第2章 公共的な空間における 人間としてのあり方・生き方	①幸福とは ②自由とは ③正義とは ④公正とは	○	○	○	b: 公共的な空間における基本原理について、個人と社会の関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ペアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第3章 公共的な空間における 基本原理と日本国憲法	①人間の尊厳と平等 ②民主政治と国民主権 ③消極的自由と公共の福祉 ④積極的自由と義務 ⑤法の支配と人権保障 ⑥平和主義	○	○	○	c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自治つ下主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ペアワーク等) 3 課題プリント等の提出
前期末	第2編 第1章 日本の政治機構と政治参加	①法の機能と限界 ②国会の運営と権限 ③内閣と行政の民主化 ④世界の政治体制 ⑤裁判所と人権保障 ⑥私たちと義務 ⑦地方自治のしくみ ⑧選挙のしくみと課題 ⑨政党政治 ⑩国民と政治参加	○	○	○	a: 諸資料から、必要な情報・知識を適切に収集、理解し、要旨を読み取り、まとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ペアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第2章 経済のしくみ	①経済活動と私たちの生活 ②市場のしくみ ③市場の失敗 ④現代の企業 ⑤国民所得 ⑥景気変動と物価の動き ⑦財政の役割 ⑧税の課題 ⑨企業のしくみと働き ⑩中央銀行と金融の自由化	○	○	○	a: 諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨を読み取り、まとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ペアワーク等) 3 課題プリント等の提出

後期中間	第3章 変化する日本経済	①戦後復興から高度経済成長へ ②安定成長からバブル経済 ③バブル後の日本経済 ④日本の中小企業 ⑤日本の農業問題 ⑥公害の防止と環境保全 ⑦エネルギーと循環型社会	○	○	○	a: 諸資料から、より活発な経済活動と個人の尊厳を成り立たせるために必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨の読み取りやまとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ペアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第4章 豊かな生活の実現	①私たちの生活と契約 ②消費者主権 ③労働者の権利 ④現代の雇用・労働問題 ⑤社会保障の役割 ⑥社会保障制度の課題	○	○	○	c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自治つ下主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ペアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第5章 国際政治のしくみと動向	①国家主権と国際法 ②人権保障の広がり ③国際連合の役割と課題 ④第二次世界大戦後の国際社会 ⑤冷戦終結後の国際社会 ⑥人権・民族・難民問題 ⑦核兵器の廃絶と国際平和 ⑧日本の安全保障の現状	○	○	○	a: 諸資料から、権利や自由が保障・実現され、社会の秩序が形成、さらに維持されていくために必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨の読み取りやまとめる技能が身に付いている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ペアワーク等) 3 課題プリント等の提出
後期末	第6章 国際経済のしくみと動向	①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みと変化 ④グローバル化する経済	○	○	○	b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ペアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第7章 国際社会の現状と課題	①地域統合の進展 ②南北問題 ③新興市場国 ④地球規模の諸課題 ⑤地球環境問題 ⑥日本の役割	○	○	○	c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自治つ下主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ペアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第3編 持続可能な社会をつくるために	①民主主義を考えよう ②日本の将来問題 ③科学技術の進展 ④外国人との共生	○	○	○	a・b・c総合: 現代の諸課題から、その課題の解決に向けて事実を基に協議して考察・構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ペアワーク等) 3 課題プリント等の提出

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
前期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	2年	教科書	最新 数学Ⅱ(数研出版)
科目	数学Ⅱ	クラス	Ⅲコース	副教材	3ROUND数学Ⅱ・B(数研出版) NEW ACTION FRONTIER 数学Ⅰ・A NEW ACTION FRONTIER 数学Ⅱ・B
		単位数	4	担当者	五日市 純哉

学習目標	① 複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法の基本的問題を解くことができる。 ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを世の中の事象に活用し数学的に考察することができる。 ③ 数学的な見方や考え方のよさを認識し、仲間と協力してよりよく問題を解決することができる。	
学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考えるグループワークやペアワークを行う。 ② 課題ノートを作成し、授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 授業終了時に、本時の授業内容の復習及び課題内容の理解度を測るための評価テストを行う。	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	1章 式と証明  2章 複素数と方程式	式の展開と因数分解	○		○	a: 式の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。因数定理を用いて高次方程式を解くことができる。分数式の演算ができ、因数分解や解の公式の意味を理解して、方程式の解を求めることができる。 b: 式の特徴や関係を理解し、考察することができる。 c: 式の演算や性質及び新しい数に関心を持ち、展開や因数分解、証明などを、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 (1)発言 (2)取組状況 (3)評価テスト ②課題提出 (1)提出状況 (2)取組状況 ③評価テスト ④定期考査
		二項定理	○	○	○		
		分数式の計算	○		○		
		複素数	○		○		
		2次方程式の解と判別式		○	○		
		解と係数の関係		○	○		
		整式の割り算	○		○		
因数定理・高次方程式 等式・不等式の証明		○	○				
前期末	3章 図形と方程式	直線上の点・平面上の点	○		○	a: 図形や式の特徴を数学的に捉えて、表現・処理することができる。図形と式の原理・法則などを体系的に理解し様々な値が求められる。 b: 直線や円の方程式等の仕組みを理解し、図形と方程式の関係を多面的に考察、表現することができる。 c: 図形や式との関連に関心を持つとともに、それらを事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③評価テスト ④定期考査
		直線の方程式	○		○		
		2直線の関係	○		○		
		円の方程式	○		○		
		円と直線		○	○		
		軌跡		○	○		
		不等式と領域		○	○		
後期中間	4章 三角関数	三角比・一般角	○		○	a: 三角関数の考えにおいて、グラフに表すなど、事象を数学的に表現・処理することができる。三角関数の性質を理解し、三角関数における定理や公式を適切に活用することができる。 b: 図形の性質や定理について論理的に考え考察することができる。 c: 三角関数の考え方や新しい角の考え方に興味を持ち、それらを身近な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③評価テスト ④定期考査
		三角関数	○		○		
		三角関数の相互関係	○		○		
		三角関数の性質・グラフ	○	○	○		
		加法定理		○	○		
		いろいろな公式		○	○		
		弧度法		○	○		
後期中間	5章 指数関数と対数関数	指数の拡張	○		○	a: 指数関数や対数関数の基本的な原理・法則を理解し、様々な値を求めることができる。 b: 指数関数や対数関数のグラフの特徴を理解し、数の大小比較等に活用することができる。 c: 指数や対数の考え方に興味を持ち、そのよさを認識し、それらを身の回りの事象に活用しようとする。指数を拡張しても指数法則が成り立つことを理解し、対数に活用することができる。	①授業態度 ②課題提出 ③評価テスト ④定期考査
		累乗根	○		○		
		指数関数のグラフ	○	○	○		
		対数とその性質	○		○		
		対数関数のグラフ	○	○	○		
		常用対数		○	○		
				○	○		
後期末	6章 微分法と積分法	平均変化率と微分係数	○		○	a: 微分法を用いて、関数の増減を調べ、そのグラフを書くことができる。グラフの上限関係や積分の範囲を図をもとにして考察し、面積を求めることができる。関数を微分することができる。また、不定積分や定積分を求めることができる。 b: 微分係数の図形的な意味を理解し、接線の方程式について考えることができる。 c: 微分法や積分法の定義に関心を持ち、意味を考察して、事象に活用しようとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③評価テスト ④定期考査
		導関数・微分法の公式	○		○		
		接線	○		○		
		関数の増減		○	○		
		関数の極大・極小		○	○		
		方程式・不等式への応用		○	○		
		関数の最大・最小		○	○		
		不定積分	○		○		
		定積分	○		○		
		面積		○	○		

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
前期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	2年	教科書	最新 数学B(数研出版)
科目	数学B	クラス	Ⅲコース	副教材	3ROUND数学Ⅱ・B(数研出版) NEW ACTION FRONTIER 数学Ⅰ・A NEW ACTION FRONTIER 数学Ⅱ・B
		単位数	2	担当者	佐々木卓磨

学習目標	① 数列, 統計的な推測について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関係について認識を深める。 ② 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用できる。	
学習方法	① 授業において自ら考え, また, 周りの生徒と共同で考えるグループワークやペアワークを行う。 ② 課題ノートを作成し, 授業内容についての課題に取り組む。また, 週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 授業終了時や授業開始時に, 授業内容の復習及び課題内容の理解度を測るための評価テストを行う。 ④ 振り返りシートを用いて, 学習内容の理解度と授業への取り組みを自己評価し, 学習の質を向上させる。	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活との関わりについて認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
	b 思考力・判断力・表現力	離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
定期考査については, 上記 a, b, c の観点それぞれについて, 学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 数列 第1節 数列とその和	1. 数列	○	○	○	a: 等差数列や等比数列について理解し, それらの一般項や和を求めることや, いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解できる。 b: 事象から離散的な変化を見だし, それらの変化の規則性を数学的に表現し考察できる。 c: 数列のよさを認識し, 数列を活用する態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が養われている。	①授業態度 (1)発言・話し合い (2)取り組み ②課題提出 (1)提出状況 (2)取り組み ③評価テスト ④定期考査
		2. 等差数列					
		3. 等比数列					
		4. 等比数列					
		5. 和の記号 $\Sigma$					
		6. 階差数列					
前期末	第1章 数列 第2節 漸化式と数学的帰納法	1. 漸化式と一般項	○	○	○	a: 漸化式について理解し, 事象の変化を漸化式で表したり, 簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたり, 数学的帰納法について理解できる。 b: 事象の再帰的な関係に着目し, 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え, 数列の考えを問題解決に活用できる。また, 自然数の性質などを見出し, それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに, 他の証明方法と比較して多面的に考察することができる。 c: 数列のよさを認識し, 数列を活用する態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が養われている。	①授業態度 (1)発言・話し合い ②課題提出 (1)提出状況 (2)取り組み ③評価テスト ④定期考査
		2. 数学的帰納法					

後期中間	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測	1. 確率	○	○	○	a: 標本調査の考え方について理解を深め, 確率変数と確率分布について理解することができる。また, 二項分布と正規分布の性質や特徴について理解する。また, 正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解する。 b: 確率分布や標本分布の特徴を, 確率変数の平均, 分散, 標準偏差などを用いて考察できる。目的に応じて標本調査を設計し, 収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして, 母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに, 標本調査の方法や結果を批判的に考察できる。 c: 標本調査のよさを認識し, 標本調査を活用する態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が養われている。	①授業態度 (1)発言・話し合い (2)取り組み ②課題提出 (1)提出状況 (2)取り組み ③評価テスト ④定期考査
		2. 確率変数と確率分布					
		3. 二項分布					
		4. 確率密度関数					
		5. 正規分布					
		6. 二項分布と正規分布					
後期末	第3章 数学と社会生活	1. 母集団と標本	○	○	○	a: 社会生活などにおける問題を, 数学を活用して解決する意義について理解する。日常の事象や社会の事象などを数学化し, 数理的に問題を解決する方法を知ることができる。 b: 日常の事象や社会の事象において, 数・量・形やそれらの関係に着目し, 理想化したり単純化したりして, 問題を数学的に表現できる。また, 数学化した問題の特徴を見出し, 解決できる。問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察することができる。解決過程を振り返り, そこで用いた方法を一般化して, 他の事象に活用することができる。 c: 数学のよさを認識し, 数学を活用する態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が養われている。	①授業態度 (1)発言・話し合い (2)取り組み ②課題提出 (1)提出状況 (2)取り組み ③評価テスト ④定期考査
		2. 母平均の推定					
		3. 仮説検定					
		1. ごみの量の推定					
		2. 自転車のシェアリング					
		3. 電気料金と省エネルギー					
4. 平均気温と地球温暖化							
5. 標高と気温の関係							
6. 自転車が進むまでの距離							

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
前期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期中間	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期末	知識及び技能	40	25	15
	思考力・判断力・表現力	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	2	教科書	物理基礎(数研出版)
科目	物理基礎	クラス	Ⅲ	副教材	リードα物理基礎+物理(数研出版)
		単位数	3	担当者	佐々木 倫郎

学習目標	○物体の運動と様々なエネルギーに関心を持つ。□ ○基本的概念や原理・法則を理解し、科学的な見方・考え方を養う。□ ○目的意識を持って観察、実験などを行い、探求する能力と態度を身につける。				
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。□ ○ノートを作成し、授業内容についての課題や演習問題に取り組む。□ ○器機、器具などの基本操作を学ぶ。□ ○基礎・基本を習得する。□				
学習評価	評価の観点		評価の趣旨		
	a	知識及び技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。		
	b	思考力・判断力・表現力	自然の事物・現象の中に問題を見観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。ただし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。		
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	速度 加速度 落体の運動	○	○	○	a・等速直線運動の式およびx-t図、v-t図を理解できている。 b・速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上でどのように示されるかを正しく理解し、物体の運動のようすを考えることができる。 c・重力加速度の大きさを測定する実験に主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2章 運動の法則	力とそのはたらき 力のつりあい 運動の法則 摩擦を受ける運動	○	○	○	a・重力、垂直抗力、摩擦力、糸が引く力、弾性力について、理解できている。 b・運動方程式を用いて、物体の運動を説明できる。 c・力のつりあいや作用反作用の法則を確かめる実験に主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
前期末	第3章 仕事と力学的エネルギー	仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギー保存則	○	○	○	a・仕事の原理を仕事で計算して求め、比較をし理解している。 b・力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定性的に考えることができる。 c・力学的エネルギー保存則の実験に主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	熱と物質の状態 熱と仕事	○	○	○	a・温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解されている。 b・日常的な事象を、学習内容に照らし合わせて説明できる。 c・ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心をもち、理解しようとしている。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査

後期中間	第3編 波 第1章 波の性質	波と媒質の運動 波の伝わり方	○	○	○	a・波の発生原理や基本事項を理解している。 b・波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。 c・波が衝突や反射するときのようになるところ、興味を持って、自分の考えを述べるができる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2章 音	音の性質 発音体の振動と共振・共鳴	○	○	○	a・日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解している。 b・音の特徴づける3つの要素について説明できる。 c・弦や気柱の振動の実験や、振り子の共振の実験において、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
後期末	第4編 電気 第1章 物質と電気	電気の性質 電流と電気抵抗 電気とエネルギー	○	○	○	a・オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解している。 b・オームの法則を理解し、I-Vグラフより、金属の抵抗値を求めることができる。 c・オームの法則の検証実験や物体の抵抗率の測定の実験に、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2章 磁場と交流	電流と磁場 交流と電磁波	○	○	○	a・直線電流、円形電流、ソレノイドのつくる磁場の向きを判断することができる。 b・電流と磁場の関係について説明できる。 c・電流の流れる向きと磁場の向きの関係について、主体的に考えることができる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用	エネルギーの移り変わり エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界	○	○	○	a・エネルギーにはどのような種類があるか、また、身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解している。 b・ある事象に対して、どのようなエネルギー変換が行われているかを考察し、説明することができる。 c・新しいエネルギーである再生可能エネルギーに興味をもち、さまざまな発電方法における共通点を探すと、主体的に取り組むことができる。	①授業態度 ②授業への取組み ③課題への取組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30



# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	2	教科書	化学基礎(数研出版)
科目	化学基礎	クラス	Ⅲ	副教材	セミナー 化学基礎+化学(第一学習社)
		単位数	2	担当者	堤 友理江

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校で学んだ内容をもとに、物質の構成と化学結合、変化について詳しく理解する。</li> <li>○科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</li> <li>○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</li> <li>○物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</li> <li>○基本的な入試問題を解けるようになる。</li> </ul>
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。</li> <li>○授業内容についての演習問題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。</li> <li>○実験器械、器具などの基本操作ができる。</li> <li>○化学基礎に関する基礎・基本を習得する。</li> </ul>

学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識および技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 物質の構成と化学結合	第1章 物質の構成 純物質と混合物 物質とその成分 物質の三態と熱運動	○	○	○	a 物質の性質を理解し、適切分離方法や元素検出方法をあげることができる。それらの方法を実践することができる。 b 物質を分離する操作がどのようなものであるかや物質の違いを説明することができる。 c 身のまわりの物質の性質や日常生活の中の物質の状態変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第1編 物質の構成と化学結合	第2章 物質の構成 原子とその構造 イオン 周期表	○	○	○	a 原子の構成粒子、電子配置、イオン、イオン化エネルギー、周期表について理解している。 b どのような原子が安定であるか、電子配置に基づいて説明できる。原子の電子配置から、その原子がどのようなイオンになりやすいかを判断できる。 c 同じ元素でも粒子の構成が異なるものがあることや原子とイオンの違いについて興味をもつ。	
前期末	第1編 物質の構成と化学結合	第3章 粒子の結合 イオン結合とイオン結晶 共有結合と分子 配位結合 分子間にはたらく力 高分子化合物 共有結合の結晶 金属結合と金属結晶	○	○	○	a 組成式を書く方法を理解している。各結晶の性質の違いを理解している。さまざまな分子を分子式や電子式、構造式で表しその構造を考えることができる。 b 各結晶の性質や違いについて説明することができる。分子の形を予想して、極性分子と無極性分子に分類できる。 c 各結晶にはどのような物質があるかに興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第2編 物質の変化	第1章 物質質量と化学反応式 原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応式と物質質量	○	○	○	a 原子量・分子量・式量の定義を示すことができる。実際の物質の量を物質質量で表せる。濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。正しい化学反応式が表せる。 b 粒子の数・質量・気体の体積と物質質量に関する計算ができる。2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 c 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。	
後期中間	第2編 物質の変化	第2章 酸と塩基の反応 酸・塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩 中和滴定	○	○	○	a 酸・塩基の定義や水溶液中のH <sup>+</sup> の濃度をpHで表す方法を理解している。中和反応を化学反応式で表すことができる。中和滴定で使用するホールビペット、ビュレット、メスフラスコなどの器具を正しく扱うことができる。 b 酸と塩基を見きわめられる。塩の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断し、説明することができる。中和の量的関係を数式で表すことができる。滴定曲線におけるpH変化、中和点、使用できる指示薬について理解している。 c 酸・塩基に関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究する。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
後期末	第2編 物質の変化	第3章 酸化還元反応 酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用	○	○	○	a 酸化還元の定義を理解している。酸化還元反応の様子を、色の変化をもとに判断できる。酸の違いによる金属の反応性を理解している。 b 酸化数から酸化還元反応を判断できる。酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを説明できる。酸化還元反応の量的関係を計算により求めることができる。金属固有の性質をイオン化傾向で考えることができる。 c 酸化還元反応に関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究する。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査

### 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	2	教科書	生物基礎(数研出版)
科目	生物基礎	クラス	Ⅲ	副教材	新課程リードα生物基礎(数研出版) 生物図録(数研出版)
		単位数	3	担当者	堤 友理江

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身の周りの生命現象に興味・関心を持つことができる。</li> <li>○グループ学習を通し、自ら調べるとともに他と協力しながら学習内容を深めることができる。</li> <li>○実験・観察を通し、探求の過程を身につけることができる。</li> </ul>	
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。</li> <li>○長期休業等でレポートを提出し、時事に関心を寄せるとともに、問題解決能力を養う。</li> <li>○課題ノートや授業ノート、レポートの作成に工夫を加え、学習内容を整理する。</li> <li>○実験・観察の目的に沿った手法を他と協議しながら実施する。</li> </ul>	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	生物や生命現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。
	b 思考力・判断力・表現力	生物や生命現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。
	c 主体的に学習に取り組む態度	生物や生命現象を通して自然に対する探求心を持ち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探求する能力と態度を身につけている。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 生物の特徴	1生物の多様性と共通性 2エネルギーと代謝 3呼吸と光合成	○	○	○	a顕微鏡の各部の名称と役割を理解しているか。また良好な観察のために顕微鏡観察ができる。 bDNA、ATP、細胞構造などが生物にとって重要なはたらきをもつことを理解し、説明できるか。 cさまざまな生物や生命現象に対して興味・関心を持っているか。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
前期末	第2章 遺伝子とのはたらき	1遺伝情報とDNA 2遺伝情報の複製と分配 3遺伝情報と発現	○	○	○	aタンパク質の構造を理解しているか。また、タンパク質合成の過程を理解しているか。 bDNAのどのような特徴からそれが遺伝子の本体であると判断されるようになったかを科学的に考察し、表現することができるか。 cさまざまな生物や生命現象に対して興味・関心を持っているか。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
後期中間	第3章 生物の体内環境とその維持	1体内での情報伝達と調節 2体内環境の維持のしくみ 3免疫のはたらき	○	○	○	a免疫の機構とそれにはたらく細胞の役割を正確に理解しているか。また解剖手順を正確にこなし、輸尿管、腎動脈、腎静脈、腎等腎臓の構造を確認できるか。 b体内環境を維持する複雑なしくみを理解し、それを説明することができるか。 cさまざまな生物や生命現象に対して興味・関心を持っているか。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
後期末	第4章 植生の多様性と其の保全	1植生と遷移 2植生の分布とバイオーム 3生態系と生物の多様性 4生態系のバランスと保全	○	○	○	a多様な植生について優占種や相親から分類し、植生遷移が起こるしくみを理解できるか。 b無機的環境と生物間の複雑な関係によって生態系のバランスが保たれている事を考え、人間の活動がそれに大きな影響を与えつつあることを考える事ができるか。 cさまざまな生物や生命現象に対して興味・関心を持っているか。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び理解	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び理解	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び理解	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び理解	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	2	教科書	現代高等保健体育(大修館書店)
科目	体育	クラス	Ⅲコース	副教材	Active Sports 2023 総合版(大修館書店)
		単位数	2	担当者	照井貴子・田村憲介

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康と保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を身に付ける。				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の合理的、計画的な実践を通して、知識、技能を高める。</li> <li>・ペアやチームでの活動を通して、仲間と協力したり交流したりする。</li> <li>・教科書や副教材などから、競技のルールや健康、安全面についての理解を深める。</li> </ul>				
学習評価	評価の観点	評価の趣旨			
	a 知識及び技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようする。			
	b 思考力・判断力・表現力	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを伝える力を養う。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	A 体づくり運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画、集団行動	○	○	○	a 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則を理解している。 b 自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c 体づくり運動に自主的に取り組んでいる。	観察 記録 スキルテスト
	E 球技 ア:ゴール型	バスケットボール	○	○	○	a 動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 b 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c バスケットボールに自主的に取り組もうとしている。	観察 スキル・筆記テスト 学習カード
	E 球技 イ:ネット型	バレーボール	○	○	○	a ボール操作や用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。 b よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 c バレーボールに自主的に取り組もうとしている。	
	C 陸上競技	短距離走 走り幅跳び	○	○	○	a 体力の高め方を理解し、各種目特有の技能を身に付けている。 b 課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直している。 c 陸上競技に自主的に取り組んでいる。	観察 スキルテスト 学習カード
	H 体育理論 (1)運動やスポーツの学び方	1. 技能と体力 2. 技術と戦術	○	○	○	a 運動・スポーツにおける技能と体力の関係を理解している。 b 生涯について運動の計画を思考し判断することができる。 c スポーツの技術・戦術について考えて行動するようにしている。	観察 筆記テスト ノート
前期末	G ダンス ウ:現代的なリズムのダンス	現代的なリズム グループ学習	○	○	○	a リズムの特徴を捉え、変化やまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができる。 b 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c ダンスに主体的に取り組んでいる。	観察 学習カード 発表会
後期中間	E 球技 ア:ゴール型 ウ:ベースボール型	サッカー	○	○	○	a 動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 b 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c サッカーに自主的に取り組もうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
		ソフトボール	○	○	○	a バット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備によって攻防ができる。 b よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 c ソフトボールに自主的に取り組もうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	H 体育理論 (2)運動やスポーツの学び方	3. 技能の上達過程と練習 4. 効果的な動きのメ	○	○	○	a 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。 b 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について思考し判断している。 c 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について主体的に取り組んでいる。	観察 筆記テスト ノート
後期末	E 球技 イ:ネット型	バドミントン 卓球	○	○	○	a ボール操作や用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。 b よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 c バドミントンや卓球に自主的に取り組もうとしている。	観察 学習カード 筆記テスト
	H 体育理論 (3)運動やスポーツの学び方	5. 体カトレーニング 6. 運動やスポーツでの安全の確保	○	○	○	a 体カとトレーニングの基本理論について理解している。 b 体カトレーニングの効果的な学習の仕方について思考し判断している。 c スポーツのけがや事故の予防を理解して、考えて行動している。	観察 筆記テスト ノート

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考查	考查以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	20	0	20
	思考・判断・表現	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	2	教科書	現代高等保健体育(大修館書店)
科目	保健	クラス	Ⅲコース	副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)
		単位数	1	担当者	照井貴子

学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身に付ける。				
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○ノートや副教材等を利用し、授業内容についての理解を深め、課題や演習問題に取り組む。				
学習評価	評価の観点		評価の趣旨		
	a	知識及び技能	現代社会と健康、社会生活と健康について、生涯を通じて健康の保持増進やそれを支える環境を考え、授業で得た知識を元に健康的な生活を送るための選択や活用ができる。		
	b	思考力・判断力・表現力	健康についての自他や社会の課題を発見し、計画的な解決をに向けて思考し判断し、目的状況に応じて他者に伝えることができる。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	現代社会、安全な社会生活について理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。		
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	3. 生涯を通じる健康	1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶	○	○	○	a 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解している。	①授業態度 ②課題提出
						b 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明できる。	
c 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。							
前期末	6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康 8. 働くことと健康 9. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活	6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康 8. 働くことと健康 9. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活	○	○	○	a 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解している。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査
						b 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明できる。	
c 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。							

後期中間	4. 健康を支える環境づくり	1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁、土壌汚染と健康 3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備 5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動	○	○	○	a 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解している。	①授業態度 ②課題提出
						b 健康を支える環境づくりに関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明できる。	
c 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解し、主体的に取り組もうとしている。							
後期末	7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用 9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加	7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用 9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加	○	○	○	a 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解している。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査
						b 健康を支える環境づくりに関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明できる。	
c 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解し、主体的に取り組もうとしている。							

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			
前期末	知識・技能	30	20	10
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			
後期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	外国語	学年	2	教科書	Power On English Communication II (東京書籍)
科目	英語コミュニケーションⅡ	クラス	Ⅲコース	副教材	ワーク・辞書・チャックで英単語
		単位数	4	担当者	小竹 光

学習目標	1 外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。 2 英語の情報や考えなどを的確に理解したり、概要を適切に伝えたりすることができる。 3 理解した学習事項を使って、内容に関連することや自分の考えについて英語で表現することができる。	
学習方法	○授業内で習得するゴールを明確に示し、学習意欲を高める。 ○継続的な音読を行うことで英語のリズムや表現をしっかりと身につける。 ○文章を理解し、要点や概要を伝える(Reproduction)ことでコミュニケーション力を高める。 ○要約や本文に関連する英作文を書くことで、ワークブック等で文法・語法の運用力を高める。	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
	b 思考力・判断力・表現力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを的確に伝えている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーション関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	Lesson 1 Play me, I'm Yours	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a 助動詞、受け身、S+V+Cを用い、情報や自分の考えを伝えることができる。 b ストリートピアノと人々・社会とのかわりについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c ストリートピアノと人々・社会とのかわりについて、必要な情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
	Lesson 2 Ethical Fashion	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a SVOC, 知覚動詞, 使役動詞を用い、情報や自分の考えを伝えることができる。 b ファストファッションの問題やエシカルファッションについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c ファストファッション問題やエシカルファッションについて、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
	Lesson 3 One for All, All for One	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a 現在完了、過去完了、仮定法if節を用い、情報や考えを伝えることができる。 b マイケル・リーチ選手について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c マイケル・リーチ選手について、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
前期末	Lesson 4 Vending Machines	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a 主格・目的格の関係代名詞及び非制限用法を用い、情報や考えを伝えることができる。 b 日本と海外の自動販売機について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 日本と海外の自動販売機について、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
	Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a 助動詞+受け身、SV分詞, if名詞節, it seems (appears)を用い、情報や考えを伝えることができる。 b プレイルノイエについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c プレイルノイエについて、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
	Lesson 6 New Banknotes	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a It is said that, It is 形容詞 that/to 不定詞, 助動詞+have+ppを用い、英語で表現できる。 b 新紙幣とキャッシュレス社会について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 新紙幣とキャッシュレス社会について、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
後期中間	Lesson 7 Some Secrets about Colors	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a 所有格・同格の関係代名詞, 前置詞+関係代名詞, whereの非制限用法を用い、英語で表現できる。 b 色の心理的効果について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 色の心理的効果について、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
	Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a 強調の文, 関係代名詞which, to have 過去分詞を用い、情報や自分の考えを伝えることができる。 b 納豆パウダーについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 納豆パウダーについて、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
後期末	Lesson 9 Flying after Her Dreams	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a althoughの文, no matter 疑問詞, 分詞構文を用い、情報や自分の考えを表現できる。 b ベシー・コールマンの経歴や人物像について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c ベシー・コールマンの経歴や人物像について、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
	Lesson 10 To Work or Not to Work?: Humans and Robots	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a 過去完了進行形, be to 不定詞, 未来完了, insist thatを用い、情報や自分の考えを表現できる。 b 各種ロボットやロボットの労働内容の変化について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 各種ロボットやロボットの労働内容の変化について、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
前期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
後期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15
後期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	15	15

# 令和6年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	英語	学年	2	教科書	Amity(開隆堂)
科目	論理・表現Ⅱ	クラス	Ⅲコース	副教材	ワーク・辞書・システム英単語
		単位数	2	担当者	小竹 光

学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や話し手の考えなどを理解し、場面状況に合った応答をすることができる。</li> <li>2. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や自分の考えなどを相手に伝えたり、意見を交換したりできる。</li> <li>3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて60語以上で書くことができる。</li> </ol>
学習方法	<p>○段階を踏んだ多様な音読をすることで、英語のまま意味や構造を体感・理解し、日本語から英語に口頭でアウトプットできる。</p> <p>○身につける文法や表現を理解した後に、類似した表現を運用することができる。</p> <p>○身につけた表現を使って日常生活の身近な話題について、まとまりのある文章を書くことができる。</p>

学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。
	b 思考力・判断力・表現力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	Lesson1 私の部活動	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a 現在形の用法が理解できる。 b 現在形を使って自分や周りの人などを表現できる。 c 現在の部活動や興味・関心があることについて、積極的に表現しようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
	Lesson2 スポーツを楽しもう	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a 過去形の用法が理解できる。 b 過去形を使って、自分や周りの人、過去の事実などを表現できる。 c 過去の出来事について、積極的に表現しようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
	Lesson3 興味があるのは・・・	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a 現在進行形と過去進行形の用法が理解できる。 b 現在進行形や過去進行形を使って、現在や過去の出来事などを表現できる。 c 自分が行っていることについて、積極的にやりとりしようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
	Lesson4 星空を眺めて	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a 現在形と現在進行形を使った未来を表す表現の用法を理解できる。 b 未来を表す表現を使って、自分のことやこれから起こることなどを表現できる。 c 修学旅行の予定について、積極的に発表しようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
前期末	Lesson5 マナーにご注意	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a can,may,might,shouldの用法が理解できる。 b can,may,might,shouldを使って、許可や推量などを表現できる。 c 友達の悩みについて、積極的にアドバイスしようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
	Lesson6 SNSとの付き合い方	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a must,will,can,should,have toの用法が理解できる。 b must,will,can,should,have toを使って、確信や義務などを表現できる。 c 友達の悩みについて、積極的にアドバイスをしようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
	Lesson7 楽しいイベント	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a 完了形(完了・結果/経験)の用法が理解できる。 b 完了形を使って、身の回りで起こったことや、自分の経験などを表現できる。 c これまでに聞いたことがあることについて、積極的にやり取りしようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
	Lesson8 暑すぎる夏に	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a 完了形(継続)と完了進行形の用法が理解できる。 b 完了形や完了進行形を使って、身の回りで継続していることなどを表現できる。 c これまで継続してきた習慣について、積極的にやり取りしようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク

後期中間	Lesson9 熱中症対策を！	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a 受動態の用法が理解できる。 b 受動態を使って、身の回りのものなどを表現できる。 c 身近にある建築物について、積極的に表現しようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
	Lesson10 グリーンエネルギー	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a 比較級と最上級の用法が理解できる。 b 比較級や最上級を使って、身の回りのものなどを表現できる。 c ある地域の人口や広さなどについて、ほかの地域と比較しながら積極的に発表しようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
	Lesson11 投票に行こう	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a 同等比較と倍数比較の用法が理解できる。 b 同等比較や倍数比較を使って、身の回りのものなどを表現できる。 c 国ごとの投票率を比較して気づいたことについて、積極的に発表しようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
後期末	Lesson12 1冊の本、1本のペン	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a 動名詞の用法が理解できる。 b 動名詞を使って、日常生活におけるさまざまなことを表現できる。 c 趣味や好きなことについて、積極的にやり取りしようとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
	Lesson13 平等な教育を求めて	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a to不定詞の名詞的用法とIt is~toの用法が理解できる。 b to不定詞を使って、身の回りの人やものについて感じたことなどを表現できる。 c おすすめしたいお気に入りの作品について、理由とあわせて積極的に書こうとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク
	Lesson14 パラスポーツの魅力	新出表現の確認 新出表現の定着 表現活動	○ ○	○ ○	○ ○	a to不定詞の副詞的用法と形容詞的用法が理解できる。 b to不定詞を使って、活動の目的や身の回りのものなどをくわしく表現できる。 c 最近できていなかったことについて、理由とあわせて積極的に書こうとする。	定期考査、授業テスト パフォーマンステスト ペアワーク、グループワーク

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30